

卓越した業績を目指して

—社会的使命(mission ミッション)に基づいた「自覚」ある行動を—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) 開倫塾の社会的使命(mission ミッション)は、「成功の実現」に貢献すること。
- (2) 「成功の実現」に貢献するためには、積極的な「問題の解決」が求められる。
- (3) 常に積極的な精神ですべてに対処すること。

2. 卓越した業績を目指して一塾生の学力向上(学校成績上昇と希望校合格)のために—

- (1) 何のために勉強するのかを、塾生に一人残らず自らの頭で考えさせること。

①新聞を毎日、小学生は 20 分、中学生は 40 分、高校生は 60 分以上読んで、考える能力を身に付けさせる。

②読書を奨励すること。

「新書」が非常に読みやすく、また手軽に入手できるようになった。また、教養を身に付ける文庫本も非常に読みやすい形で出版されている。小学生高学年から高校 3 年生まで、毎週 1 冊は「新書」や教養を身に付ける「文庫本」での読書を確実にを行うことを奨励したい。本を深く読み、考える能力を身に付けさせること。

③様々な人の話を真剣に聴き、どのように生きたらよいのかを自分のこととして考える契機、きっかけを持たせること。

視野を広く持たせるチャンスを与えること。視野を広く持つための良質な勉強の機会を持つこと。

- (2) 受験する学校を 1 日も早く決定し、希望校合格のために勉強をスタートさせること。

①受験学年の塾生には、1 日も早く受験校を決定させ、入塾と同時に受験勉強をスタートさせること。

(ア) 不合格者は「自覚」不足が大半。「自覚」が不足していると、いくら長期間通塾しても合格は程遠い。

(イ) 合格困難が予想される学校を受けたいのなら、「困難」を合格「確実」にするだけの受験勉強を、自覚した瞬間つまり今日から入試の当日までやり通さなければならない。

(ウ) そのことを本人に十分「自覚」させた上で、受験勉強のプログラムを作り上げ、つまり目標(マイル・ストーン)を設定してあげ、本人のために徹底したマネジメントをすることが我々の責任。

②非受験学年の塾生でも高校 2 年生、中学 2 年生、小学 5 年生には、1 日も早く受験校の決定を行うことを促すことが合格の第一歩。

(ア) 大学入試は高 3 になってからでは遅すぎる。高 1 の 4 月には受験校の決定を行わせること。

(イ) 高校入試は、各市 No. 1 高校は中 2 の 1 学期の初め、つまり今週から真剣にやれば、開倫塾の塾生であれば大半は合格する。このことを塾生に伝え、自覚を促すこと。

(ウ) 私立中学校、公立中高一貫校は 5 年生から取り組み、開倫塾の塾生であれば合格できることが多い。塾生、保護者にこのことを正確に伝え、自覚を促すこと。

③開倫塾では、「勉強の方法」を何から何まですべて伝授すること。

(ア)教科の指導にあたっては、教科内容について教えるべきことを何から何まで伝え「理解」させること。特に、学校で十分勉強していないと思われる塾生には、「学校教育を補う」という「学習塾の使命」に基づいて、不足分を十分にうんなるほどと「理解」させること。

(イ)開倫塾の社会的使命(mission ミッション)としては、塾生に必要な知識を伝授することである。自らの責任で、教えるべきことはすべて伝えること。

(ウ)「学習の動機付け」や本人の「自覚」を促すことも、家庭や学校で行っていない場合には、塾生本人の「成功の実現」に貢献するために遠慮することなく積極的に行うこと。

(エ)塾生の学力に全責任を持つことが大切である。

(3)具体的方法

①塾生「本人の自覚」を促すこと。

②なぜ勉強するのか、勉強する意味を塾生自らに考えさせること。

③受験学年以外の塾生にも、受験校を1日も早く自らの意思で決定させること。

④「勉強の仕方を学ぶスキル(Learn How To Learn のスキル)」を、開倫塾の塾生として在している期間に「学習の3段階理論」などを通じて身に付けさせること。

⑤新聞を毎日読み考える習慣(能力)を身に付けさせることー「スクラップブック」ー。

⑥本(特に「新書本」や教養を身に付けることのできる「文庫本」)を毎週1冊読み考える習慣(能力)を身に付けさせることー「書き抜き読書ノート」に、気に入った文章を書き写し何回も読むー。

⑦「ノートブックの作り方、使い方」を身に付けさせること。

⑧「躰(しつけ)」を「開倫塾の15の躰プログラム」を通じて身に付けさせること。

⑨長時間学習の必要な塾生には「自習室」や「空いている机」を使用させ、夕方から夜の10時30分までひたすら机に向かわせること。

⑩現在の成績と受験校に合格できる学力との差(GAP)を正確に認識させること。その差(GAP)を埋めるためにはどうしたらよいか。具体的な目標(マイル・ストーン)を設定してあげ、確実にクリアさせ続けることが我々の仕事。

3. おわりにー積極的な思考が学習塾の業務では不可欠ー

(1)「この塾生をどうにかしてあげよう」という「熱い思い」が、学習塾での教育の基本。

(2)塾生や保護者の困っていることや問題点は何かを知るために「耳を傾ける」ことは大事。

(3)しかし、いっしょに「困った、困った」と口にしたのでは、「問題解決」にはならない。励ました上で、ではどうしたらよいかを共に考え、具体的な目標(マイル・ストーン)を示し続け、1つずつクリアすることで「目的」を成し遂げることができるようサポートすることが大事。

(4)塾生や保護者の問題解決ができなければ仕事をしたことにはならないのと同様に、仕事の上での問題を解決できなければ開倫塾の社員としての仕事をしたことにはならない。問題解決のためにはよく事情を理解するために「傾聴」することは大事だが、いっしょになって落ち込んだり、消極的な言葉を発してはならない。ではどうしたらよいかを積極的に考え、目標(マイル・ストーン)を具体的に示し続けることでそれをクリアし続け目的を達成することが大事。

(5)但し、「ルールの中でのプレイ」の大切さを、塾生や保護者に訴え徹底させること。仕事の上でも徹底すること。ルール違反は認められない。

①「やってはいけないこと(法令で禁止されていること、開倫塾の規則で決まっていること、道徳に反すること)」はしない、させない。

②特に、夜10時30分過ぎに塾生が開倫塾の校舎に居残ることは、防犯上絶対禁止。社員は、自分自身と他の社員の健康維持のため、また、退職(離職)の原因をつくらないために11時過ぎまで校舎に1名も存在してはならない。

以上